

者共集會致し、牛痘之種痘致し候間、世上望之者共は、勝手次第罷越、療治受候様可致候、右之通町中江可被相觸候、

右之通御書付、當七月十日相觸候處、いまだ町中未々迄、御觸面之趣不行渡哉ニ相聞候間、早々町中家持借屋店借裏々迄、不洩様可被相觸候、

但町々番屋々々江張出置可申候、

八月廿七日

〔嘉永明治年間錄〕文久元年十月廿四日、種痘所ヲ改メテ西洋道學所ト唱フ、種痘の儀、以來西洋道學所、右之通唱替相成候間、向々へ寄々可被相達置候事、

〔皇國醫事沿革小史〕後編第六期安政五年紀元二千五百十八年東都ニ於テ伊東玄朴幕府長春院ト號ス竹内玄

同同侍醫法印渭戸塚靜海同侍醫法印靜林洞海同侍醫法眼坪井信良同侍醫法眼杉田玄端洋書調所等、

當時西洋醫術ヲ以テ門戸ヲ江戸ニ樹ツル者八十餘名、相謀テ一社ヲ神田於玉池ニ設立シ、専ラ

種痘術ヲ施ス、之ヲ種痘館ト稱ス、次デ館祝融ノ災ニ罹リ、下谷和泉橋通ニ移ス、文久元年紀元二千五百二十一年ニ至テ、幕府其資ヲ助ケ大ニ規則ヲ改メ、教授職ヲ置テ學徒ヲ誘掖スル所トナシ、西洋醫學所ト改稱ス、時ニ大槻俊齋幕府醫官ノ校務ヲ督シ、坪井芳洲ト改ム島村鼎甫後鼎等ヲ教授職ト爲ス、

俊齋沒シテ幕府緒方洪庵ヲ大坂ヨリ徵シ、侍醫法眼ニ任ジ、醫學所ノ頭取トス、洪庵沒シテ、侍醫法眼松本良順、其頭取及ビ教頭ヲ兼ネ、大ニ生徒ノ教育ニ力ヲ盡ス、生徒四方ヨリ廣集シ、屹然大學ノ體ヲ成ス、是ヲ東京大學醫學部ノ原始トス、

〔ジエンナー種痘發明百年期紀念文集〕種痘考○中略

大坂除痘館

嘉永二年、痘苗ノ京都日野鼎哉ノ許ニ著シタリトノ報アルヤ、大坂ノ緒方洪庵ハ、日野葛民ト